

JENESYS2015 派遣プログラム

テーマ：「食」

(カンボジア／高校生（食関連・専門課程）) の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、カンボジアへ日本の高校生 23 名が派遣され、日本の政治、社会、歴史、文化、食に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、11 月 30 日から 12 月 9 日までの 9 泊 10 日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加高校・人数

栃木県立宇都宮白楊高等学校 23 名（うち引率者 2 名）

3. 訪問国

カンボジア王国

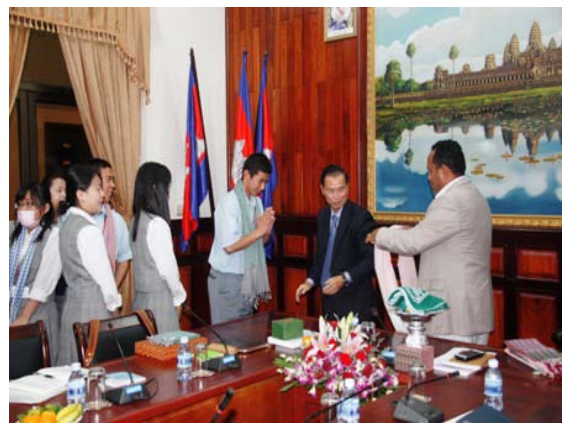
4. 日程

- 11 月 30 日（月） 出発前オリエンテーション
- 12 月 1 日（火） 羽田国際空港より出発、プノンペン着・空港にて歓迎式
- 12 月 2 日（水） 【表敬訪問】在カンボジア日本国大使館、教育青少年スポーツ省、
青年連盟
【市内視察】トゥール・スレン博物館、国立博物館
- 12 月 3 日（木） 【学校交流①テーマ：「食」】Bak Touk High School
- 12 月 4 日（金） 【学校交流②テーマ：「食」】カンボジア日本友好学園
- 12 月 5 日（土） 【歴史/文化/自然】ワット・プノン、王宮/シルバーパゴダ
【商業施設視察】セントラルマーケット（「食」市場の視察）、
トゥールトンボンマーケット、イオンモール（日系「食」売場の視察）
- 12 月 6 日（日） 【ホームビジット】
- 12 月 7 日（月） 【ODA サイト視察】カンボジア王立農業大学『JICA 草の根技術協力
事業：（名古屋大学）カンボジアにおける農産物・加工品の安全性向
上プロジェクト』
- 12 月 7 日（月） 【ワークショップ】報告会準備
- 12 月 8 日（火） 【成果報告会】歓送会
プノンペンより出国
- 12 月 9 日（水） 羽田国際空港到着

5. JENESYS2015 派遣プログラム記録写真（派遣国：カンボジア）高校生（食関連・専門課程）



12/2 在カンボジア日本国大使館表敬訪問・ブリーフィング



12/2 教育青少年スポーツ省表敬訪問・教育省長官と対話



12/3 学校交流① テーマ：「食」の発信
Bak Touk High School



12/4 学校交流② テーマ：「食」の発信
カンボジア日本友好学園



12/6 ホームビジット



12/8 成果報告会

6. 参加者の感想

◆ 栃木県立宇都宮白楊高等学校 高校生

この JENESYS2015 カンボジア派遣で最も印象に残ったことは、カンボジアの人たちの“日本愛”です。カンボジアの人々の乗用車やカメラなど、様々な所で日本製のものが多く使用されていたこと、カンボジアの学校へ行った時に長蛇の列で歓迎してくれて、日本語をスラスラと話す生徒がたくさんいたので、日本を愛してくれているのだと実感しました。

帰国後伝えていきたいことは、カンボジアの教育と「食」とその問題のことです。教育については、貧しく学校へ行けない子や進級でき諦めてしまう子が数多くました。日本の多くの人々に毎日授業を受けられることを感謝し、当たり前だと思っはいけないということを伝えていきたいです。「食」については、衛生面で食品をむき出しのまま売場に出していたり、ハエやほこりなどが食品に付いていたり衛生状態が悪かったので、日本がどのようにしているのかその技術を伝えて、カンボジアの衛生が良くなることを望みます。

◆ 栃木県立宇都宮白楊高等学校 高校生

今回の訪問で最も印象に残っているのは、派遣国であるカンボジアの人々の温かさです。入国の時の私たちへの歓迎はとても素晴らしく衝撃を受けました。学校などへの訪問先でも私たちを温かく受入れ、歓迎してくれました。日本にカンボジアの人々が来てもここまでやらないのではないかと思います。素晴らしいかったです。

また、カンボジアの人々はニコニコとのんびりしていて、フレンドリーで積極的で、とても素敵な方たちでした。勉強熱心で、英語や日本語が流ちょうな生徒がたくさんいました。ただ、このように勉強できる人は一部で、学校に行けない子どもがいる事実も理解しました。

私は、水道水が飲めること、どの店でも安心して食べ物が食べられること、学校で勉強ができること、私たちのしているすべてが当たり前のようで当たり前でないということを、日本の皆さんに伝えたいです。

また、今回の訪問を通して学んだものを派遣団全員で考えたアクションプランという形で広めていきたいと思います。これが考えで終わるのではなく、実行し、良い結果を出したいです。そして、両国の関係をより深めていきたいと思います。

◆ 栃木県立宇都宮白楊高等学校 高校生

今回の派遣で印象に残った出来事を主に三つ紹介します。

一つ目は、日本人に対する歓迎の良さです。カンボジアスポーツ青少年局総副局長をはじめとして地元テレビ関係者や多くのマスメディアに迎えられ、良いスタートを切ることができました。その後の学校訪問の際も校門まで多くの人が拍手で出迎えてくれたり、生徒たちからプレゼントをもらったり、暖かい歓迎に心を打たれました。

次は学習意欲の高さです。学校へ行けるのが当たり前と思っていた私にとって、彼らの英語力や積極性には驚かされました。ただ通学してテストに必要な勉強をしているだけの私とは違い、異国の人とコミュニケーションをとるための学習をしているところに影響を受けました。それと同時に帰国後の英語の勉強に力を入れる決心をしました。

三つ目に、カンボジアの現状を目の当たりにしたことです。貧富の差や交通設備の不届き、衛生管理状況を実際に見て、日本の支援の重大さと今後の課題を見つけて発表しました。「JAPABODIA」というアクションプランを立て課題研究などで調べを継続することも決意しました。この10日間は私の人生の価値観を変え前向きな気持ちにさせてくれる非常に貴重な日々でした。出会えたすべての物、人に感謝し、将来の糧にしようと思います。

7. 参加者の帰国後の発信内容

Food Action JAPABODIA  1. カンボジア料理 2. 食品販売の衛生状況 3. 日本との比較	Action Plan カンボジアにおける食品についての改善点 ⇒研究、提案と発信  JAPABODIA
カンボジアでの気づき：カンボジアの「食」文化と衛生環境、日本との比較	日本の魅力を発信：食品衛生管理の技術、食文化の保全と継承の大事を伝える
教育と貧富の差 Dream of Equal Education バック・トゥック高校/ <u>Bak Touk high school</u> フレンズ・ザ・レストラン/ <u>Friend's the restaurant</u> カンボジア日本友好学園 <u>Cambodia-Japan Friendship Middle and High School</u> 	Action plan 教育と貧富の差 Dream of Equal Education 私たちが普通に学校に行けることは当たり前ではないということです。 学校に行けることが普通だと思っていたが、学校で教育を受けられることに感謝しなければならなかったと感じました。 Every child in Cambodia SMILE SMILE SMILE!  いいね！ facebook
カンボジアでの気づき：教育と貧富の差、教育を受けられない子供たち	日本の魅力を発信：教育機会の平等の大事、貧富の差を狭める活動や支援を探る
すばらしいカンボジア人 Splendid Cambodian 笑顔 SMILE カンボジア人の人柄 努力家 Effort 積極的 ACTIVE 日本人の人柄 	Action Plan! すばらしいカンボジア人 Splendid Cambodian 体験談を... Experiences  これを踏まえて Based on this ⇒さらなる交流 & 発信
カンボジアでの気づき：すばらしいカンボジア人の人柄からの学びと相互理解	アクションプラン：学校報告会、地元紙新聞取材、学校ホームページ、Twitter、Instagram、Facebook で発信・交流を継続、両国の相互理解を促進する